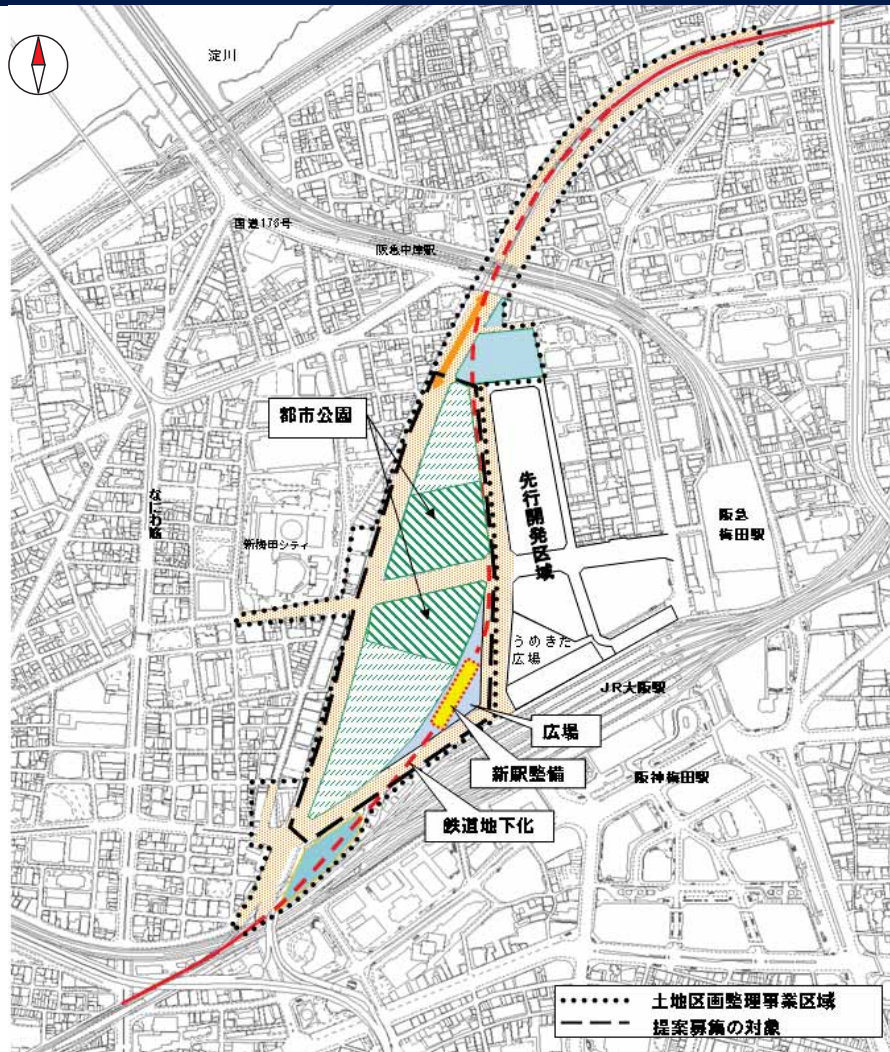


JR東海道線支線地下化事業 調書付属資料

建設局
平成28年11月



北区豊崎6丁目～福島区福島7丁目

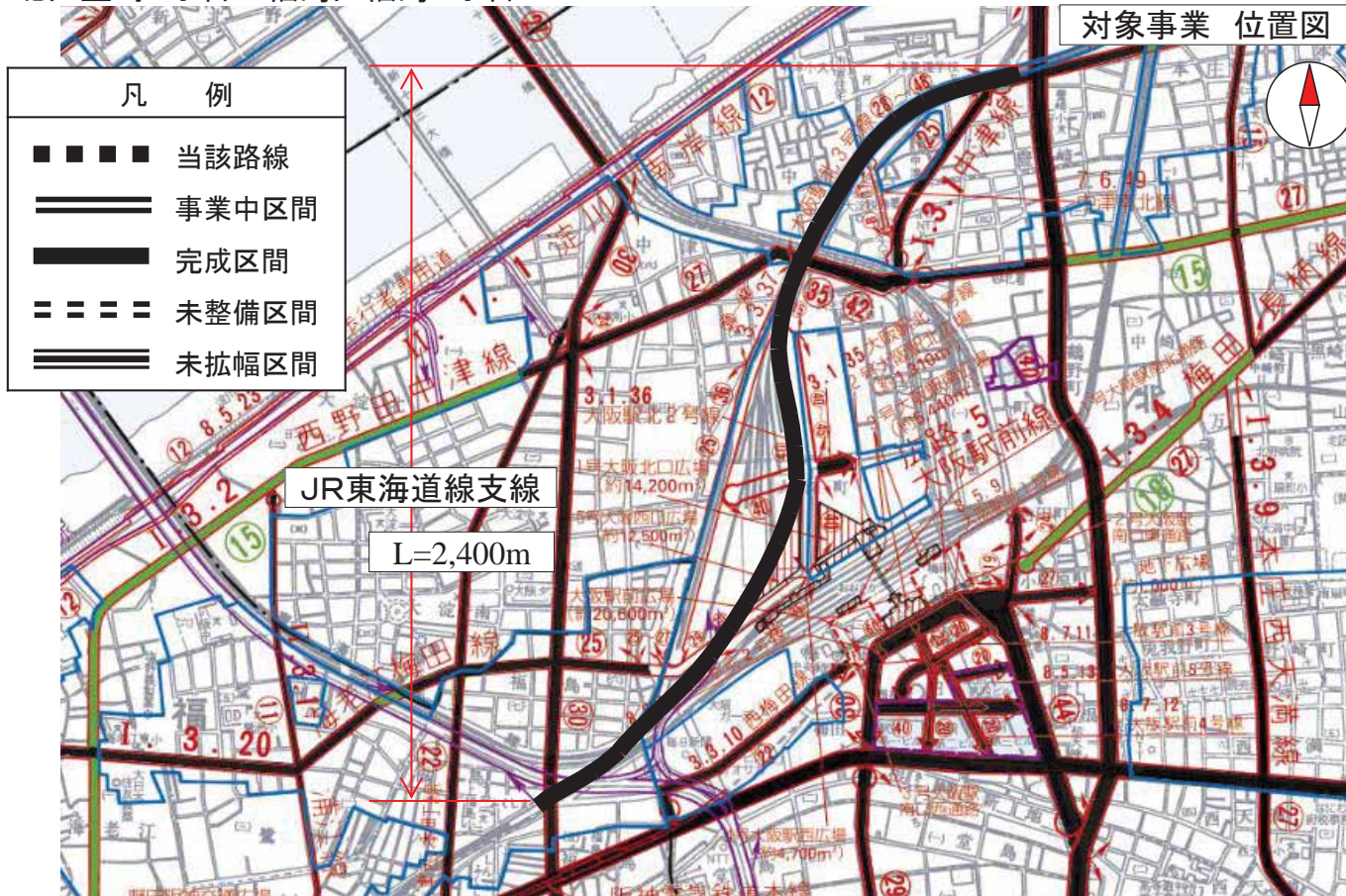


図2 費用便益分析の概要

(3事業の必要性の視点 ②費用便益分析)

便益(単位:億円)

走行時間短縮	668
交通経費減少	35
交通事故減少	17
合計(初年便益)	46
便益総額の 現在価値	720

費用(単位:億円)

事業費 (単純合計)	540
維持管理費 (単純合計)	5
投資総額の 現在価値	470

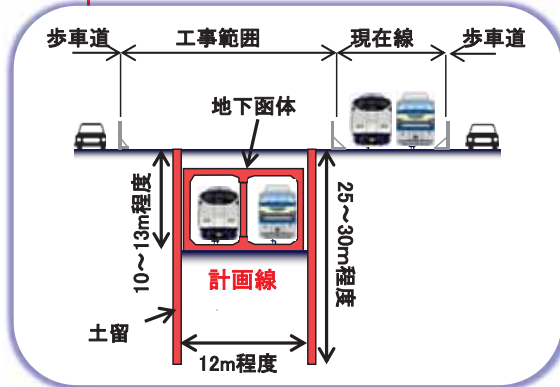
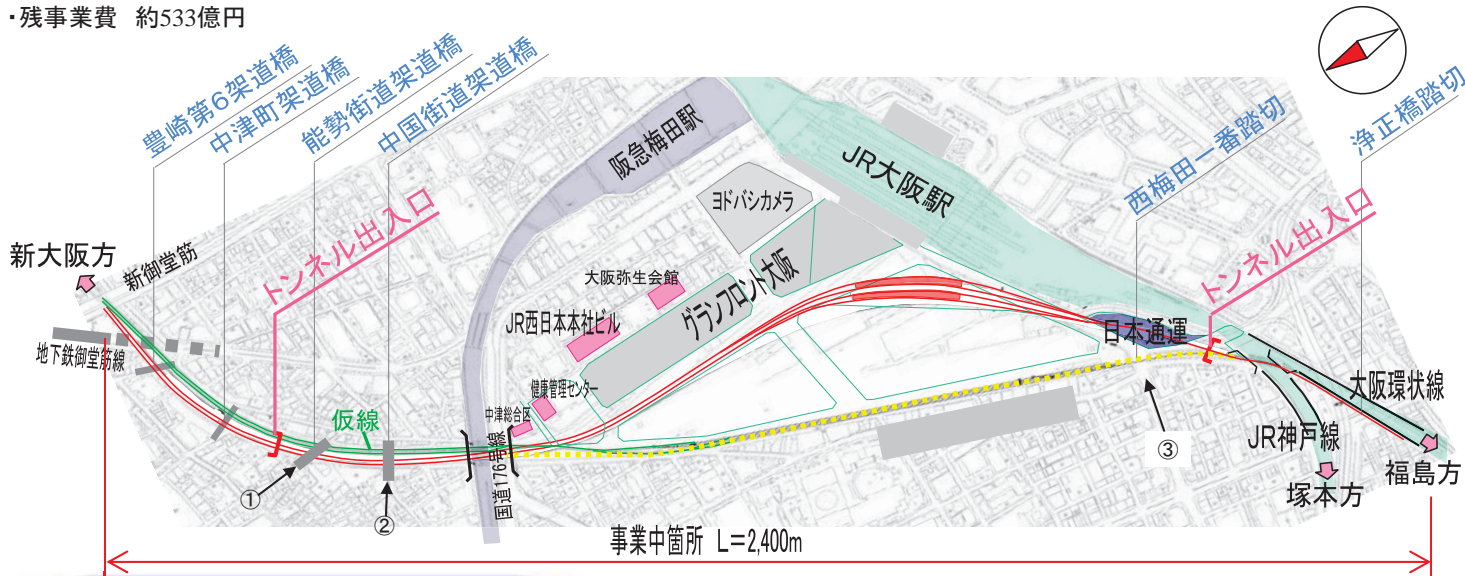
社会費用便益比 (B/C)	1.53
------------------	------



図3 進捗状況

(4事業の実現見通しの視点 ②事業規模)

- ・鉄道の地下化工事(延長2400m)
- ・残事業費 約533億円



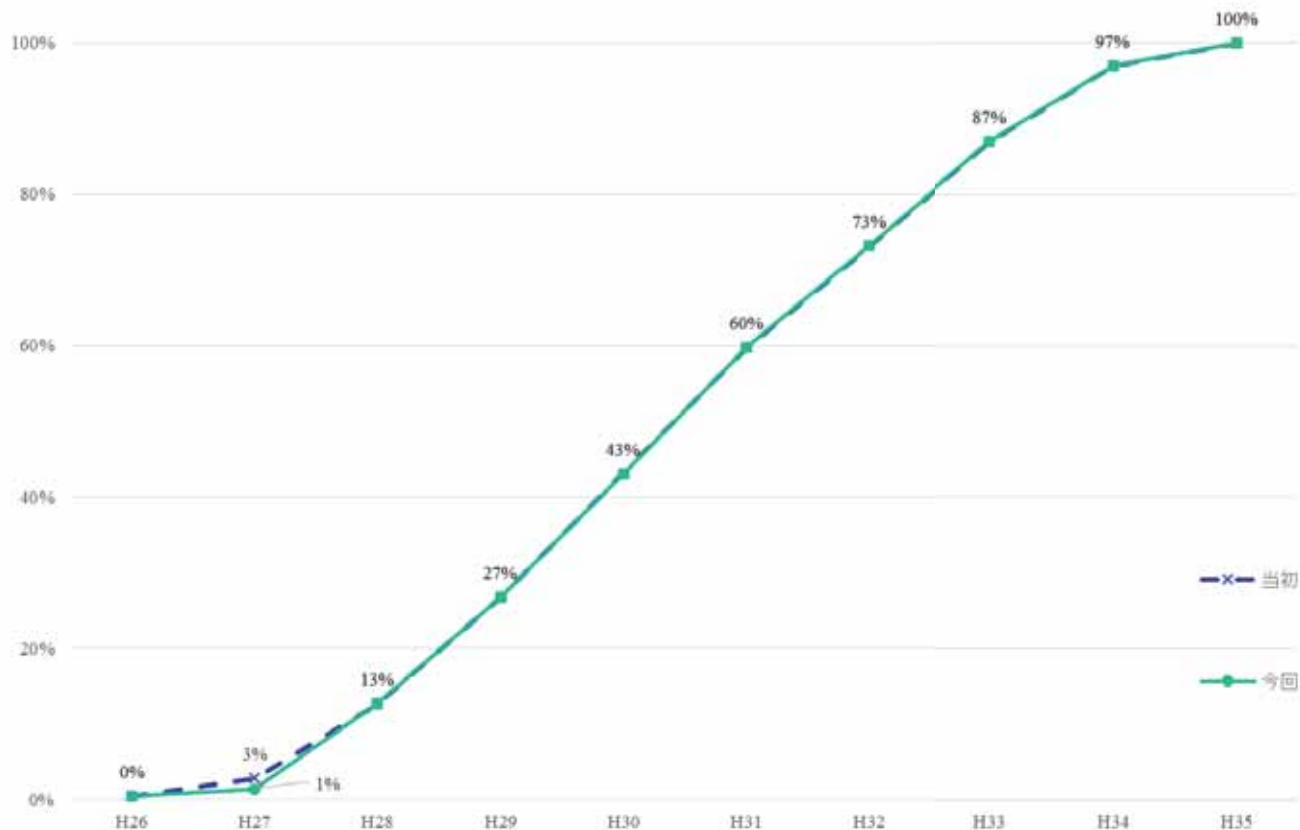
工事進捗率 : 0.4% (工事費ベース)

事業費ベース進捗率 : 1%



図4 進捗率の推移

(4事業の実現見通しの視点 ③総事業費)



<費用対効果分析の結果>

①便益額(B)

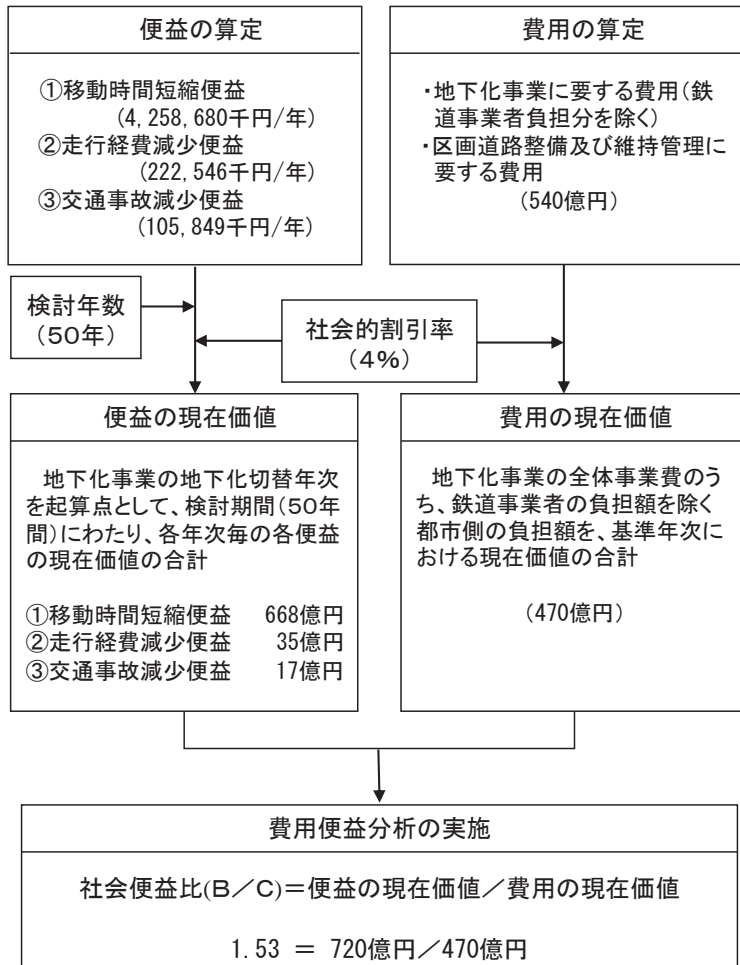
効果項目	初年度 便益	検討 年数	基準年(H28)に おける現在価値
①移動時間 短縮便益	4,259百万円	50年	66,800百万円
②走行経費 減少便益	223百万円	50年	3,459百万円
③交通事故 減少便益	106百万円	50年	1,724百万円
合計	4,588百万円		71,983百万円

②費用(C)

	費用
基準年	平成28年度
単純合計	54,003百万円
基準年における現在価値	46,993百万円

③評価指標の算定結果

費用便益比
B/C = 1.53



* 社会的割引率: 今年の価格と来年の価格とは同じ価格でも実質的な価値が異なることを考える必要がある。通常は来年の価格の方が価値が低いので、割引率を用いて換算する(各年の便益を現在の価値に割引く)